

東由利町報

昭和50年(1975)4月10日

発行 秋田県東由利町役場 印刷 KK本間印刷所
毎月1日発行(1部20円) 昭和42年7月21日第3種郵便物認可

◇芳志ありがとう

玉小へ雑きん贈り続けて10数年

新学期を迎えた玉米小へ今年も善意の雑きん數十枚が届けられ児童や先生たちが感激されています。

贈り主は、間もなく米寿を迎えようとしている小松キミさん(下小路、三治郎氏母屋)で、この善意は二十数年連続されています。

高令にもかかわらず丹精込めて雑きんを縫い続ける小松さんの「何かお役に立ちたい」とする真しな生き方は、同校児童たちの鑑になると見られています。ありがとうございました。

昨年に続き 単行本七冊

町報送付のお礼として東京在住の加藤和一郎氏(元玉小校長)から昨年に引き続き七冊の単行本が係へ寄せられました。本は公民館蔵書として予定しております。ありがとうございます。

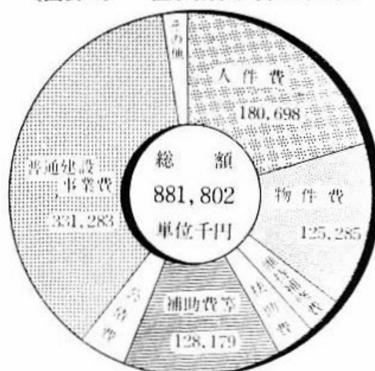
建設事業、目白押し

一般会計

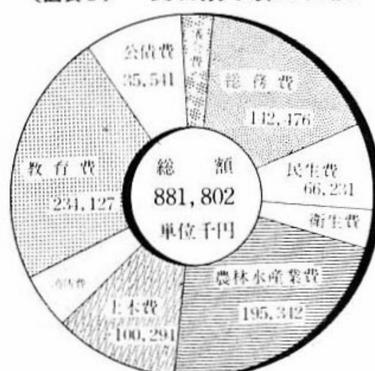
三月十二日 役場に招集された第一回町議会定例会は、町長の施政方針・教育委員長の教育行政方針の発表、五議員による一般質問、各常任委員会の審議等を経て、人事の同意案件二件を含む二十三案件をいづれも原案どおり可決して同月二十二日閉会しました。

昭和三十九年度の町一般会計は、町長の説明にもあつたように歳入歳出とも八億八千八百八十八万二千円、前年度の当初予算に比較して37・8割増で計上されました。この予算の特徴は、図表1でもわかるとおり住民福祉を高める生活環境を整備するための普通建設事業費の予算に占めると、公民館建設事業五千五百三十六万四千円、▼玉米小屋内運動場(体育館)改築事業七千六百六十四万二千円、▼蔵小学校校舎改築事業一千六十二万三千円、▼蔵・上里線改良事業一千二百万円、▼除雪機購入費一千六十五万円、▼

(図表1) 性質別予算の内訳



(図表2) 費目別予算の内訳



財政の堅実化に配慮

自主財源わずか19%

自主財源わずか19%

また、歳入は主なものから列記すると、▼地方交付税四億一千九百七十万円(12・4割)、▼県支出金一億七千五百六十五万円(12・2割)、▼国庫支出金七千六百四十七万六千円(8・7割)、▼町税六千三百八十八万八千円(7割)、▼雑入金五千四百二十七万円(5・7割)などとなっております。



年度始めの町長訓辞に聞きいる職員たち

「昭和五十年は、人間の造り出した技術が独自で歩き出した時代と言え、人間がこれを制御できるか否かが将来の課題になると考えられます。」

奉仕者“自覚を”

町長年度始めで職員に訓辞

昭和五十年年度の年度初めに当たる四月一日、小松町長は全職員に対し「職員全員が住民の奉仕者であるという根本理念をあらためてかみしめ、お互いよりよい町政推進のため努力されたい」と、次の要旨で訓辞を与えました。

一面で否定をし、一面で肯定する……この極みが政治や行政の中にもあつて、錯さうしとまどつていっているのが現在(問題など、いずれも一つの文明において価値判断ができた)。

玉小体育館に一千

玉小体育館に一千

玉小体育館に一千

玉小体育館に一千

玉小体育館に一千

玉小体育館に一千

玉小体育館に一千

88%が保険給付費

国民健康保険事業勘定特別会計予算は歳入歳出のそれぞれを二億一千六百五十二万九千円に定め、前年比47・2割の増になっています。

黒淵診療所の会計

黒淵診療所特別会計予算は歳入歳出それぞれ総額を百三十八万一千円と定めたもの(黒淵診療所特別会計予算)。

受益者負担は“地積割”

本年度から着工する町営福子沢地区土地改良事業に係る経費の賦課基準及び徴収時期を次の方法等と定めたもので、その概要は次のとおり。

基本料金を五千元に

町有ブルドーザーの使用料をそれぞれ次のように引き上げることにした。(一)アワン(アワン)

町長28万5千元に

常勤の特別職(町三役)の給与等をそれぞれ次のとおり改定した。

町定



佐藤力氏を再選

三月三十一日、町定

(次ページへ続く)

